自由の空へ

天海翔星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
自由の空へ

【Ｎコード】
Ｎ０２３０Ｆ

【作者名】
天海翔星

【あらすじ】
自由に憧れ旅に出た少年は海で溺れる瞬間に見たものは！？そして最低の始まりをした最高の夏が始まり自由を求めた少年の刻が動き出す。

プロローグ

自由・・・　それは生きてる証

自由・・・　幸せの瞬間（とき）

俺はそんな自由が欲しくて全てを捨てて旅に出た・・・

しかし俺、は今・・・

「誰かタ～ス～ケ～テ～」

命の危機に瀕しているのであった。

さて、紹介が遅れたな俺の名前は聞いて驚け桜井武彦だ。

え！　みんな知らない！！！馬鹿なそんなはずが・・・あるか俺は、

ごく普通の高校生だしな

知っているほうが怖いな。

さて今俺はどんな状況かと言うとこんなだ・・・・・

なんて言って通じる分けないかなんて言ってる暇はない

「死にたくないよ～」

なんて叫んでいるからにはアマゾンでアナ〇ンダに追いかけられたりしてると思うだろう

しかし、ここは海しかも普通の高校生はこんな所では溺れないだろうと言う場所だが、今俺は

足を吊っているという大大ピンチ。

「こんなところで死んでたまるか」と生きる努力も虚しく岸は、遠

のいて行く。
「こんなところで死んでたまるか」と必死に泳いだが、もう沖と言うべきかなりつーかやばい場所までまでなが去れってしまったようだ。
「こんなところで死んでたまるか」と頑張ってきたけどもう限界のようだみんなまたいつか会おう。

しかし短い命だったな・・親父は割かし金持ちだったから塾に行き、進学校にも行けとうるさい奴だった。
そんな親父と決別するため家を出た。
昔の歌手が歌ったように盗んだバイクではないけれど財布を盗みバイクで自由の旅に出たが
一週間あまり眠れなっかたらしく海岸の道路でガードレールに突っ込んだらしいこれが今までの経緯だ。
これじゃ何のための自由だよと心の中で愚痴を言っている内に、もう完全に力尽きたようだ。

その海の底絶望の暗闇の中は光の天使を見た・・・・・・

「ありがとう、神様最後に天使を見せてくれて本当にありがとよ」
と思い俺の意識は闇に消えた・・・

第1話デットオアアライブ

自由は欲しかった・・・

自由に生きたかった・・・

そして死にたくなかった・・

「助けてくれ！！エロ本はベッドの下には隠してません、本棚の裏です。」

ハァ！　俺は何を言っているのだエロ本は机の引き出しだろうに・・

あれ？何で俺はこんなところで寝ているんだ？

そこは見たところ、普通の和室だった。

「俺は何でこんな所で寝ているのだろうか？」

まず落ち着けそして思い出せ・・・

チョイ待て俺は・・死んだのではないのか！！！

「ではまさかここは・・天国！！！」にしては何か所帯じみている。

などと思考している時に襖が勢いよく開かれた。

「あっ、気がついたんだ！」

いきなり入ってきた女は、なかなか美少女だった。

かなり俺好みの顔だなと思っていると女が

「あなた、危なかったわね縁が、助けなかったら間違いなく死んでたわよ」

と言いやっがった。

ゆかり？この女の名か？それとも違う奴か？

死んでた？・・・・と言う事は俺って生きてる？

「いやっほ～い俺って生きてるぜ～～」と叫んでしまった。

今俺は生きてる素晴しさを悟ってしまったが今はそんな事はどうでもいいとにかく興奮してしまっていると

「興奮してるところ悪いんだけどあたしにも何であんな所で溺れてたのか教えて欲しいんだけど」

む、まったく人の至福を邪魔しおって、まあ、しょうがない説明するか。

「じゃあ、まず名前はミナミハルオでございー「嘘つくな！！」

なんとこの女、人の最高のボケを成立する前に打ち切りやがった。

「ちっ、しょうがない俺の名前は桜井だ、桜井武彦だ」

ちゃんと正真証明の名言ってやったのに女は疑ってる目で見てきやがりカチンときた

「おい、耳が悪いのか」と言ったら・・

「グハァ」「ウゲ」

なんと拳をぶちかまされた・うむ腰の入ったいい拳だな。

「あんたが胡散臭いのがいけないんでしょ！」

なんとこの女(あま)ここまで言われると俺のガラスの心も割れちまうぜ

「胡散臭いだと、この暴力女め　ガハ！」

・・まともやいいリバーブロが入りました、

痛くて死にそう・・やっぱここは実は地獄なのではないのかふしぎでたまらん。

「さて、そろそろ本題にはいりますか」

人が地獄の苦しみにのたうちまわっているといけしゃあしゃあと

「ん、なんだ何か用か女」と言ってしまった！！　ここでまたボケ

をかましたるべきだった

「あら、やっとまともに、答えてくれた。」

「心外な、人が変人だと言うとは、まったく」

失礼な奴だ、まったく

「普通そう思うわよ、今までの会話から。」

何、今まで会話にそんな要素があるというんだ、まあいいもうそろそろ真面目になるとしようか。

「で、何の用だ、・・・　つーかここ何処だ？」

しまった！　ボケる事で夢中で自分の状況を何も知らねぇよ、もしかしてここは北朝〇！拉致られた、俺！
やっば嫌な汗が出てきたよどうしよう・・マジで

「用は有るけどここは、凪砂町よ」

うむここは凪砂町と言うのか知らない場所だが、日本だと言うのはわかっただけなのにこのこみ上げて来る感情は何だろう
安堵？　感動？まあどうでもいいか、さてそろそろいろいろ聞かなければならないな

「おい女、お前誰だ。」

「あんたねぇ、いきなりその態度はないんじゃない？」

「いや、もともと無礼者だからな気にしないでくれ

「まったく、縁もこんなの拾ってきて、何考えてるんだか。」

「人をこんなのとは侵害だ武彦という、プリチーな名があるんだから、そう呼べ、女。」

「なら私も女ではなく日向遙という、素晴しすぎる名があるんだからそう呼びなさい、わかった。」

そうか遙と言うのか、よしここで最高のジョークを言うか。

「わかったよ、女♪」・・「グナァ」

「人の話はちゃんと聞こうね、わかりましたか武彦君～」

早い！　ここまで早いツッコミは初めてだ、そして強烈すぎるのは・・てかホントにこれ以上食らいたく無いぞ
ここはは大人しく引き下がるしかない。

「くっ、わかったよ、遙」

なんということだ屈辱だ、まったくいつか１００倍にして返してやる、覚えてろよ。

「あんたと話してるとすごく疲れるはホントに。」

「そろそろ聞きたい、なんで俺ここに居るの？」
いきなりふと思ったので言ったが急すぎたようだな、遙の奴なぜか

驚いているようだな。

「何であんたいきなり真面目に聞いてくるのか・・まったく、その辺はもうすぐ帰ってくるから・・噂をすれば帰ってみたみたいだ。」

なんだ、むっ、足音が聞こえるな、なんだ近ずくて来るな、敵か、足音もすぐ近くそして襖が・・・開いた。

「お姉ちゃん、起きた？」

入ってきたのは女だっただが俺はその女は見た事があった、それは深遠の海の底で見た天使だった。

第1話デットオアアライブ（後書き）

前回はあとがきを入れ忘れましたけど、天海です。
読んでくださった方はどんどん悪い点などをコメントしもられると
ありがたいです。

第2話出会い始まり

自由は・・　　手に入れるもの

自由は・・　　大切なもの

俺は絶句していた、俺が死んだ時に、いや死にかけた時に見た、幻(まぼ)想(ろし)の天使が目の前でこちらを見つめているのだから。

だが、俺の脳内はボケることを考え始めてる

1、「奥さん、こんにちは」

2、「結婚してください　幸せにします！！」

3、「こんにちは、スリーサイズいくつ？」

されどれにするか俺としては・・

「こんにちは、スリーサイズいくつ」ハァ！しまった普通に聞いてしまっ

「グハッ」

「いきなり人の妹にセクハラとはいい度胸だな、地獄見せてやろうか。」

何ぃ！！妹だとこの美少女が、馬鹿な！　家の妹も美少女だが兄貴の俺は普通なのにこいつ等は姉妹それってだと！！
ふぅ、しょうがない謝っておくか一応。

「すまん、聞きか無くてもわかる上から、９０、５９、８６だろ？」

むっ、なんだ女子は顔を赤くしている、遙かも豆鉄砲を食らった顔してどうした

「あのぅ、なんで知ってるんですか？」と消えそうな声で聞いてきた。

「おっ的中か誤差１センチは覚悟していたのになぁ、何でわかるかって、俺の特技の一つだ。」

フッ、見たか俺の百八のスーパースキルの一つ、スリーサイズスカウター、どうだ凄くね！

「変な目で人の妹見るなー！！！」と同時の右ストレートは、決まったー　これは起き上がれるか～

ヤッバ！　また俺は死んでしまうのか、俺は意識が遠のき始めたその時

「あっ、そうだ　お姉ちゃん、この問題教えて。」

とＭＹエンジェルが遙に聞いている、「んっ、どれ、これ？」

「うん、それ。」

「これは、あたしじゃわからないな。」

これは汚名挽回のチャンス！！

「それ貸してくれよ。」

ハァ、何言ってんのコイツみたいな目で見られたが気にしない、気にしたら負けだ！

「じゃあ、はい。」

フッ、こんな問題だ簡単すぎるぜ、見るがいい遙この俺の力を！！！

「ここはこうやってから、ここを計算すれば値が出るから後は普通にやればいいから。」

フッ、どうだ見たか俺の力、あれぇ、なんで皆さん世界が終わったような顔をして何で？

「あ、あんた、何でわかるの？？」

「なんで、わかるんですか？」

うわぁ、二人でハモられたよ、しょうがない教えてやるか

「だって、俺、天草の特進だし」

天草それは超有名な進学校でもあり馬鹿が集まったりする生徒数が６０００を軽く超えるマンモス級の学園だ。

そこの特進クラスは東大など余裕でいけるレベルが集まるとこである。

ぶちゃけ、俺って天才なんだな～これが。

「「えっ、うそ」」

今度はセリフも同じだよ～すこし傷ついちゃうよ、どうしよう

「ひどいぞ、君達人を見かけで判断しちゃだめだぞ。」

ふっ、遙の右が俺の右頬捕らえるまで3・2・「がっは」

「気持ち悪いすぎよ」

早い、早すぎる！！俺の予測より2秒も早い・・
しかし殴られるのも飽きてきたし少しは真面目に状況確認をするとしますか。

「なぁ、なんで俺はここに居るんだ??」

「えっ、・・そうねそろそろ色々聞きたいしいいわ、まず、こちらから聞くわ、なんであんな所で溺れていたの?」

ふむ、なぜかと言われると答えにくいな、どうするか、まぁここは素直に言うとしますか

「実は、俺は家出中でその旅の途中で睡眠不足が原因で海に落ちたらしい、必死に泳いでる途中で力尽きたて起きたらここにいた。」

「ハッ？？？？」

ひどくね、この扱いちゃんと話したのに～よ

俺は、まだ気ずいて、いなかったこの出会いが俺の運命を変えることになるとは・・・・・・

第2話出会い始まり（後書き）

今回は少し長めです。　これからも感想などありなしたら宜しくお願いします

第3話運命の歯車は緊急回避（前書き）

久しぶりの投稿です。　もしも楽しみにしているかたがいらしゃったら、ごめんなさい。

第3話運命の歯車は緊急回避

長い沈黙・・・それは重く、冷たい

「で、あんたはバイクでガードレールに突っ込んだ？」

「はい、その通りです。」

ここまで来るのに何回同じ説明したのでしょうか。
こいつら二人は説明しても「それ本当？」っとしか聞いてこなずあげくの果てには鉄拳すら食らい意識を失いかけるは、吐きかけるわ死に掛けるはひどい目にあったがやっと理解してくれた、学校の先生の授業もこんなめんどくさい事していたのか、もっとちゃんと話ぐらい聞いてやればよかったよ、まったく

「あの～」

ん、どうしたmyエンジェル、まさかまだ信じてくれない！！！
「事情は分かったん、ですけど、その事故は何処で起こした…
「ちょい待って……鞄は何処！！！」

「私が助けた時には、持ってませんでした。」しまった～鞄無くし

たらお金も何も無いやばい、生きてるけど、本当にすべてを失ったよ恋歌、兄は死んだと思ってくれ

「あの～たいじょうですか？」

「そんなの、心配しなくていいわよ、さっきも、いきなりそうなったから、気にしたら負けよ。」人生は不公平だよ。昔は信じていたら救われるとか言われていたのに、今は、金がすべてだと言うのか。

「あんた、これからどうするのよ？」

うむ、それはどうするか、今から家に帰るのは・・・多分ダメだろうでは、どうする？

「あんた行く所がないならアルバイトしない？」

なんだ？　バイト？　遙何を考えている、今の話を思い出すと、会って1時間も立っていないぞ、そんな奴を信じるとは。

「バイト？　何のバイトだ。」

そうここが重要だもしかしたら殺人をしろとも言われるかもしれない。

「家の店よ。」

遙はあっさりと言ったが。

今のは聞き捨てならない。

「店って、ここ店なのか」

「そうよ。」

「そうか、で、何の店だ」

「「・・・・」」

「そこ、なんで黙り込む！もしかして・・風ぞグヤァ」

「なんであんたはそうなるのよ！！！！」

ぐっ、いいパンチだ。世界を狙えるなってさっきからそれしか言ってないぞ。

それはともかく、何の店なんだ？

謎はますます深まる。しかしこのままでは拉致があかん

「じゃあ、何の店何だ？」

かなりシリアスに聞いたんだ、流石の遥も、って何で顔を赤らめているの？？

「きっ……てんです」

エンジェルが聞こえるか聞こえないかという声で言っているがなんだ？？

「きっ、？？　きつつき？」

あ、しまった、なんか身体が勝手にボケてしまった。
まずい、くるぞ、　つーか来た遙の右が、

「何度も食らって溜まるかぁ」

世界クラスの遙の右を避けるためその場から飛んだ、

しかし、その先にいたのは、ｍｙエンジェル！？！？　しまった咄嗟の事だったので計算に入れるのを忘れた。

そして遙を目の前で、俺は幻影だった、いや本当のエンジェルにキスを・・・・・・・

するはずだった。

第3話運命の歯車は緊急回避（後書き）

感想プリーズ（マジ、感想欲しい）

第４話そして刻が動き出す（前書き）

だれか感想プリーズ。

第4話そして刻が動き出す

闇……何故、深いのか…

「ん……あっ、何処だ此処は？」

眩しい光に照らされよく見えない

「あら、起きたのね。」

なんだ、遥か、しかし何で俺は、また、寝ているだ？

気になった俺は遥に聞こうとしたが

「あんたが寝てたのは、あたしのせいじゃないわよ。」

「では、何があったんだ。」

俺がすかさず聞いたら遥の奴、顔を赤らめている、何でだ？

「あんたは、本当に桜井？さっきと雰囲気が違うですけど。」

うむ、さっきは、少しふざけ過ぎたからな、しかし流石に気になる事もあるからな、しかしこのままじゃ拉致があかんのでお願いするとしますか。

「単刀直入に言おう、お前の店で雇って来れ。」

本当に単刀直入だな。しかし、世の中シンプル　イズ　ベストと言うでは無いか。

遥も驚いているようだ目が点に、なっているようだな。

「え～と、会って１時間ぐらいしか立って無いわよ、そんな奴のこと信じていいのかしら。」

全く、こっちの状況を考えて、欲しい物だな。

こっちは金がないから働くしかないが、働くために必要な身分証明が出来ないからな、やろうと思えばば出来るが、あのクソ親父に会う事になるから、却下だ。

なんて考えている内に遥の奴は顔に手を当てて

「う～ん」と悩んでいる。

今改めて見ると遥の奴なかなか可愛いではないか、だがｍｙ　エンジェルには、かなわないぜ。

「うん、分かったわ。」

何が分かったんだ、教えて欲しいぜ。

「雇ってやるわ！！」

「ちょいと待て！！」

おいおいいきなり採用かよ！？

「何？何か文句でもある？」

遥は面倒くさそうに聞いてきたが、普通びびるだろ！？
いきなり現れた人を自分の店に誘うだなんてこんなキャルゲー的なシチュが起こるなんて、
転校生がお嬢様とか異界人も何処かで起きているのでは！！！

そんな高次元な思案していると遥の奴がジト目で見てきやがる。

「で？働くの働かないのどっち？」

「そんなの決まってる。」

そうだ決まってる、俺がこのまま生きていくのにもここで遥やmyエンジェルに会ったも運命かも知れない。

「働かしてもらおうか、お前の店で。」

俺はふと窓の方を見た。窓から差し込む夕日、果てしなく広がる空、
それを翔ける鳥達、それを背に遥が言った。

それは天使のような笑顔で・・・・・

「これからよろしくね、武彦」

まったく馴れ馴れしい奴だ。だが悪くない俺はそんな最低の始まりをしたこの夏が最高の夏になると想い・・・

紅に染まった夏の大空を飛ぶ鳥達を見送った。

第一部　最低の夏始まりの空　完

第４話そして刻が動き出す（後書き）

実はこの作品は昔に友達と作った話の断片を使っていて読み直すと第一部などと書いてあったので一応入れようかと思ったので次の第二部はちゃんと最初から入れようか悩んでるのでそれは次の話を見てください

これからもこの読みづらい文章を読んでいってもらえたら思います。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0230f/

自由の空へ

2010年12月18日06時12分発行